

概 説

第 一 土 地

位 置 本縣ハ畿内ノ東南部ニ位シ十郡一市(大和全國)ヲ管轄ス東ハ三重縣ニ境シ西ハ大阪府ニ隣リ南ハ和歌山縣ニ境シ北ハ京都府ニ接ス東經百三十五度三十三分ヨリ起リ百三十六度十二分ニ至リ北緯三十三度五十二分ヨリ三十四度四十七分ニ至ル

地 勢 南北ニ長ク東西ニ狭ク山岳四面ヲ圍繞シテ北方纔ニ門通ス東ハ三國山、高見山、大臺ヶ原山、備後山等ノ群峰ヲ隔テテ伊賀伊勢紀伊ニ境シ南ハ峻嶺相重リテ紀伊ノ諸嶮嶽ト交叉シ西ハ金剛、葛城、信貴、生駒ノ逆山起伏シテ河内ノ國界ヲ畫ス

山嶽及河川 山嶽ノ大ナルモノハ七面山、佛經岳、彌山、釋迦ヶ岳、大臺ヶ原山、國見岳等ニシテ何レモ南方ニ巍峨屹立ス、河川ハ飛鳥、富雄、龍田、葛城其ノ他數多ノ小川合流シテ大和川トナリ西流シテ河内、和泉ノ國ヲ經テ海ニ入ル、宇陀川ハ宇陀郡ニ發シ伊賀國ヲ經テ名張川トナリ再ビ遙ニ北部ヲ匯リテ山城國ニ赴ク、吉野川ハ源ヲ大臺ヶ原山ニ發シ中央ヲ貫流シテ紀ノ川トナリ海ニ至ル又十津川、北山川ハ俱ニ吉野郡ノ山間ニ發シ紀伊國ヲ過ギテ南海ニ注グ、河流概ネ急湍ニシテ吉野川ヲ除ク外舟楫ノ利ヲ欠キ時ニ汎濫ノ憂アリト雖モ、吉野川、十津川、北山川ハ何レモ流筏ノ便アリテ木材運輸上利便少カラス

面 積 本縣ハ東西十六里十二町、南北二十六里一町、面積二百四十一方里餘ニ亘リ畿内五國中最大ナルモノナリトス而シテ其ノ九割一分七厘ハ民有有租地、一分六厘ハ免租地及年期地ニシテ爾餘ノ六分七厘ハ官有地ナリトス更ニ之ヲ郡市別ニ觀察スルトキハ郡ノ最大ナルモノハ吉野郡ニシテ其ノ面積實ニ本縣ノ六割二厘強(百四十五方里六六)ヲ占メ宇陀、山邊、生駒、添上、磯城等ノ各郡順次之ニ亞キ奈良市ノ一方里九分四厘ヲ最小トス

地 質 本縣ノ地質ハ錯雜混入スレトモ之ヲ分類スレバ南半ハ大部分古生層ニシテ中生層ハ其ノ南端ノ一部ヲ占メ北半ハ火成岩ヨリ成ル、地質ニハ花崗岩、安山岩アリ水成岩層中ニハ片麻岩第三紀、第四紀層アレドモ第四紀層ハ概ネ農耕地トナリ森林地ハ片麻岩層ノ地多ク之ニ亞イデハ第三紀層ナリトス其ノ他ノ地層ハ是等ノ間ニ介在シテ小面積ノ地ヲ占ムルノミ

民業及物産 民業ハ農業ヲ主トシ山地ニ在ルモノハ林業ヲ兼ネ又市街地ニ在ルモノハ專ラ商工業ニ從事シ養蠶、製茶ヲ業トスルモノモ亦尠ナカラズ物産ノ主ナルモノハ米、賣藥、綿織物、綿絲紡績、木箸、繭、酒類、用材(以上産出價額五百萬圓以上)麥(二百萬圓以上)等ニシテ其ノ生産總額實ニ一億二千七百七十九萬餘圓(一人當二百十五圓)ナリトス今之ヲ前年ニ對比スルニ總額ニ於テ二百八十九萬五千餘圓ヲ増加セリ

第 二 戸 口

人 口 大正十三年末ニ於ケル現住人口ハ男二十九萬七千五百三人、女二十九萬六千二百二十三人總計五十九萬三千七百二十六人ニシテ前年末總人口ニ比シ二千一百五人増加セリ今現住人口ヲ全面積二百四十一方里八四ニ割リ當ツルトキハ平均一方里二千四百五十五人ニシテ更ニ之ヲ郡市別ニ掲載スレバ次ノ如シ

添 上	3,393	生 駒	6,289	山 邊	3,466
磯 城	7,362	宇 陀	1,525	高 市	8,754
北 葛 城	10,484	南 葛 城	7,324	宇 智	4,435
吉 野	710	奈 良	3,553		

本表ニ依リテ之ヲ見ルニ平均一方里ノ人口トシテ最密ナルハ奈良市ノ二萬三千五百五十三人ニシテ北葛城、高市、磯城、南葛城、生駒、宇智、山邊、添上、宇陀ノ各郡順次之ニ亞キ最疎ナルハ吉野郡ノ七百十人ナリトス之ヲ要スルニ本縣ニ於ケル人口ノ分布ハ西北部ノ平坦ニ於テ稠密ニシテ東南部殊ニ南方山間ニ進ムニ從ヒ漸次稀薄トナルモノトス蓋シ本縣ハ奈良市ノ如キ市街地ヲ除クノ外ハ農耕業ヲ以テ生業トスルモノ多キガ故ニ吉野、宇陀ノ如キ山地ヨリモ比較的耕作ニ利便ナル北葛城、高市、磯城ノ各郡ニ集合スルモノナルベシ

戸 數 大正十三年末現在戸數ハ十一萬二千二百九十一戸ニシテ一戸ノ平均人口ハ五人二分八厘ニシテ全國ノ五人ニ比較スレバ稍々多シ今之ヲ前年末戸數ニ比スレハ五百二十九戸ヲ又五年前(大正八年末)ニ比スレバ五千九百二十二戸ノ増加ナリトス

著名ノ都邑 本縣ニ於ケル市街地トシテ最モ著名ナルハ奈良市(縣廳所在地)ニシテ人烟稠密縣下第一ノ都會タリ、奈良ハ本邦最古ノ帝都トシテ又有名ナル奈良公園、春日山ノ所在地トシテ夙ニ人口ニ膾炙シ土地又閑雅ニシテ名所舊蹟ニ富ミ殊ニ京阪ノ中樞ニ當レルヲ以テ益々隆盛ヲ見ルニ至レリ其ノ他郡山、高田、丹波市、下市、大淀、五條ノ各地順次之ニ亞ギ何レモ千五百戸以上ナリトス

第 三 教 育

學齡兒童 大正十三年度ニ於ケル學齡兒童ノ總數ハ男五萬六千六百七十九人、女五萬四千八百十二人、計十一萬一千四百九十一人ニシテ内就學ノ始期ニ達シタル者男四萬九千一百九十二人、女四萬八千一百六十二人、計九萬八千五十四人未ダ就學ノ始期ニ達セザル者男六千七百八十七人、女六千六百五十人、計一萬三千四百三十七人ニシテ之ヲ前年度ニ比較スルニ就學ノ始期ニ達シタルモノニ於テ二千二百八十人、全達セザル者ニ於テ三百七十七人計二千五百九十七

人ノ減少ヲ來セリ最近五ケ年間ノ學齡兒童數ヲ累記スレバ次ノ如シ

	既ニ就學ノ始期ニ達シタルモノ	未ダ就學ノ始期ニ達セザルモノ	計
大 正 年 度 9	100,102	14,550	114,652
ク 1 0	101,808	14,961	116,769
ク 1 1	100,869	14,747	115,616
ク 1 2	100,334	14,181	114,515
ク 1 3	98,054	13,437	111,491

學齡兒童中尋常小學ノ教科ヲ修ムルモノト其ノ業ヲ卒ヘタルモノト掲記スレバ九萬七千六百六十人ナリ不就學兒童ノ總數ハ三百九十四人ニシテ内就學猶豫二百五十六人就學免除一百三十八人ナリ既ニ就學ノ始期ニ達シタル學齡兒童百人中就學歩合ハ九九・六〇ニシテ前年度ヨリ〇・〇五ノ増加ヲ來セリ

小 學 校 大正十三年度末ニ於ケル市町村立小學校總數ハ三百五十二校ニシテ尋常小學校百七十二校、尋常高等小學校百六十八校、高等小學校十二校ニシテ前年度ト増減ナシ最近五ケ年間ニ於ケル小學校數ヲ表示スレバ次ノ如シ

	尋 常 小 學 校	尋 常 高 等 小 學 校	高 等 小 學 校	計
大 正 年 度 9	183	162	14	359
ク 1 0	179	165	13	357
ク 1 1	173	169	12	354
ク 1 2	172	168	12	352
ク 1 3	172	168	12	352

小學校ノ學級數ハ尋常四百九十三、高等四十五、尋常高等併置校一千五百十九計二千五十七ヲ算シ前年度ニ比シ三十四學級ヲ増加セリ

小學校教員ノ總數ハ二千二百六十一人ニシテ其ノ資格別人員ヲ掲記スレバ次ノ如シ

	男	女	計
小 學 校 本 科 正 教 員	1,800	508	1,808
尋 常 小 學 校 本 科 正 教 員			
小 學 校 專 科 正 教 員	36	69	105
准 教 員	36	10	46
代 用 教 員	144	158	302
計	1,516	745	2,261

幼 稚 園 町村立ニ係ルモノ十四、私立ニ係ルモノ一アリテ幼兒六百三人ヲ保育セリ、保母及

園児ニ關スル最近五ヶ年比較ヲ舉グレバ次ノ如シ

	園 數	保 姆	助 手	幼 兒			保 育 滿 期 幼 兒 數		
				男	女	計	男	女	計
大 正 年 度 9	6	9	6	273	274	547	183	168	351
ク 1 0	6	9	6	277	292	569	218	225	442
ク 1 1	7	12	4	337	282	619	240	226	466
ク 1 2	7	14	2	307	261	571	251	215	466
ク 1 3	15	15	2	334	269	603	253	186	433

盲啞學校 本縣ニ於ケル盲啞教育ニ關スル施設ハ大正九年度ニ始メテ私立奈良盲啞學校ヲ設置セラレ訓盲部ノミヲ收容セリ大正十三年度ニ於ケル生徒ハ普通科男七人女二人技藝科男十三人女四人ナリ

師範學校 二校生徒數ハ男子ノ豫備科三十八名本科ノ男三百十三名女二百名ニシテ本年度卒業生ハ本科男百名女七十一名ニシテ前年度ニ比シ男女ヲ合セテ十八名ヲ増シタリ
 教員ノ有資格者二十九名無資格者五名ナリ、附屬小學校訓導ハ男十八名女三名ナリ、就學兒童ハ兩校ヲ合シテ尋常科男二百八十八人女二百九十三人高等科男三十六人女三十二人合計六百四十一人ヲ收容セリ

高等普通教育 中學校ハ縣立五、私立二計七校、高等女學校ハ縣立七、私立二計九校アリ
 教員ノ總數ハ二百五十四名、中學校ノ生徒總數三千三百三十八人本年度卒業生三百五十一人
 高等女學校ノ生徒總數ハ三千五百五十一人本年度卒業生六百十四人ナリ

實業教育 甲ニ屬スルモノニハ工業學校二、林業學校一、農學校二、商業學校一、實科女學校一、職業學校二計九校アリ教員總數八十四名、生徒一千九百一十一人、卒業生三百四十四人ナリ、乙ニ屬スルモノニハ農學校二、職業學校二アリ教員數ハ二十三名、生徒總數ハ男三百人、女二百八十四人ニシテ本年度卒業生ハ男九十人、女一百二十四人ナリ

實業補習學校 總數二百六十八校、生徒數男一萬一千四百二十二、女二千八百三十六人計一萬四千二百五十八人、本年度ノ卒業生ハ男三千一百四十五人、女七百七十四人ナリ

實業補習學校教員養成所 縣立磯城農學校ニ併設シテ本年度在學生徒十八名教員ハ凡テ農林學校教員中ヨリ兼務セリ

各種學校 小學校ニ類スル各種學校ハ公私立計十八校アリテ前年度ニ比シ四校ヲ減ズ生徒數ハ三百三十六人ヲ算ス
 其ノ他ノ各種學校ハ八校アリ何レモ私立ニ係リ學科程度區々ニシテ一定セズ生徒數ハ男三千七百七人、女三千七十九人、計六千七百八十六人アリ

公 學 費 本年度ニ於ケル公學費ヲ通算スルニ總額四百二十四萬六千四百七十圓ニシテ前年度

ニ比シ二十八萬一千九百二十圓ヲ増加セリ、之ヲ區別スレバ縣公學費一百五十萬四千七百十三圓、市公學費十八萬二千六百六十六圓、町村公學費二百五十五萬九千九十一圓ナリトス右本年度ニ於ケル縣市町村公學費ノ地方費ニ對スル割合ヲ見ルニ縣公學費ハ縣費總額ノ三割七分、市公學費ハ市費總額ノ三割五分餘、町村公學費ハ町村費總額ノ四割二分餘ナリ

第 四 社 寺

神 社 本縣ニ於ケル神社ハ總數一千五百六十一ニシテ官幣社十、縣社十四、郷社三十二、村社一千百一、無格社四百三、招魂社一ニシテ内神饌幣帛料供進指定神社ハ總數三百八十七ナリトス

寺 院 總數ハ一千六百九十七ヶ寺アリテ天臺宗外十二ヶ宗ニ分カレ内最モ多數ヲ占ムルハ眞宗ノ六百三十一ヶ寺ニシテ淨土ノ三百四十四、眞言三百二十一ヶ寺之ニ亞ク又一宗ノ本山タル大寺院ハ華嚴ノ東大寺、法相ノ法隆寺、興福寺、藥師寺、律宗ノ唐招提寺、眞言律宗ノ西大寺、新義眞言宗豊山派ノ長谷寺アリ、中宮寺、圓照寺、法華寺ハ門跡寺院トシテ著名ナルモノナリ、本縣ニハ社寺ノ建造物及寶物ニシテ古社寺保存法ニ依リ特別保護建造物及國寶ニ指定セラレタルモノ他府縣ニ比シ多數ヲ占メ殊ニ當代美術ノ代表的作物モ亦尠カラズ何レモ年々國庫ノ補助ヲ受ケ修理セラレツ、アリ

第 五 慈 惠 及 褒 賞

濟 貧 恤 窮 本年中受救者總數六十六人ニシテ内癱疾二十四人、老衰十一人、疾病七人、幼弱二十二人、棄兒二人ニシテ救助金總額ハ三千二百七十一圓ナリトス

慈 善 團 體 總數五ニシテ内感化事業ニ屬スルモノ一、免囚保護事業ニ屬スルモノ一、育兒事業ヲ目的トスルモノ二、養老及育兒事業ヲ目的トスルモノ一ナリ何レモ當事者ノ熱心ニ因リ經營ノ歩ヲ進メツ、アルモ未タ其ノ成績トシテ特記スベキモノナシ

日 本 赤 十 字 社 及 愛 國 婦 人 會 事業ハ本縣支部ニ依リテ經營セラル共ニ支部ハ奈良市登大路町ニ在リテ縣下一市十郡ヲ管轄ス、大正十三年末ニ於ケル赤十字社員總數二萬四千七百三十人ニシテ前年ニ比シ五百四十人ヲ増加シタリ、又愛國婦人會員ハ一萬二千一百二十六人ニシテ前年ニ比スレバ三百三十三人ヲ増加セリ

慈 惠 救 濟 資 金 本縣ニ於ケル慈惠救濟資金ノ本年度末現在十六萬三百五十七圓ニシテ之ニ對スル歳入ハ十萬二千五百九十五圓、歳出ハ四萬五千七百五十八圓ナリトス而シテ之カ經費ハ主トシテ部落改善費、代用感化院費育兒院及養老院費補助ニ充當セルモノナリ

褒 賞 本年ニ於ケル褒狀ヲ賜ヒシ人員ハ總數二百八十九人ニシテ何レモ金穀財産等ヲ寄附

セシモノナリ

第 六 警 察

警察官署 本年末ニ於ケル警察官署ハ警察部ヲ除クノ外警察署十一、警察分署七、警察官派出所二十一 巡査駐在所百九十五ナリトス

警察職員 警視二人、警部二十四人、警部補二十八人、巡査四百四十九人合計四百九十五人ニシテ前年度ニ比シ一人減シタリ、而シテ外勤巡査一人ニ對スル人口ノ割合ハ一千五百九人ニシテ之ヲ本分署別ニ見ルニ針ケ別所ノ一千八百五十人最モ多ク丹波市、高田、下市、龍田、八木、上市、田原本ハ何レモ千五百人以上ニシテ最少ナルハ奈良ノ八百十九人ナリ

檢舉犯罪人 本年中ニ於ケル檢舉犯罪人ハ總數一萬四百九人ニシテ前年ニ比シ三百三十六人ヲ減シタリ、内刑法犯ハ三割七分四厘、縣令違犯三割八分九厘、警察犯處罰令一割三分五厘、諸條令諸規則違犯一割二厘ナリ

盜 難 本年中ニ於ケル強盜ハ十六件、窃盜ハ九百二十七件ニシテ前年ニ比シ前者ハ四件ヲ増シ後者ハ十三件ヲ減セリ、詐欺及恐喝ニ遭ヒシ人ハ八百四人ニシテ前年ニ比シ百三十五人増加セリ

第 七 裁 判 及 登 記

民事裁判 大正十三年ニ於ケル各區裁判所終局民事事件數ハ八千六百三件ニシテ前年ニ比シ二千四百四十三件ヲ増加シタリ、終局ノ内譯ハ和解事件二十、督促事件二千二百八十六、第一審訴訟事件二千六十九、抗告件數二十四、強制執行百七十八、非訟事件三千九百八十九、控訴件數三十七件ナリトス

登 記 大正十三年ニ於ケル登記件數ハ五萬二千三十二件、登録稅五十六萬一千七百八十四圓ニシテ前年ニ比シ件數九百六、登録稅一萬九百七十六圓ヲ増加セリ而シテ登記件數ノ内譯ハ不動産五萬一千九件、耕地整理三件、營利ヲ目的トセザル法人二十三件、商業未成年者妻法定代理人及支配人四十三件、商事會社六百件、産業組合三百三十七件、住宅組合七件、工場財團三件、森林組合二件、立木五件ナリトス

第 八 衛 生

醫師藥劑師及産婆 大正十三年末ニ於ケル醫師ハ三百四十二人、齒科醫ハ九十人、藥劑師ハ七十五人、産婆ハ三百九十一人ニシテ之ヲ前年ニ比スレバ醫師十一人、齒科醫九人、藥劑師二十六人ヲ増加シ産婆十五人ヲ減セリ、而シテ人口一萬ニ對スル比ハ醫師ハ五・七六齒科醫五・八三

産婆六・五九ニ當レリ、更ニ醫師ニ就テ之ヲ郡市別ニ見ルニ奈良ノ一〇・七二最モ多ク宇智ノ六・八七宇陀ノ六・六〇吉野ノ六・一九之ニ亞キ最モ少キハ添上ノ四・〇四ナリトス

種 痘 大正十三年ニ於ケル第一期種痘即チ出生ヨリ六ヶ月迄ニ行ヒタル公種痘ハ一萬七千七百九十二人ニシテ前年ニ比シ百十八人ヲ増加シタリ其ノ感善割合ハ九割六分ニシテ殘餘ノ四分ハ不善感及檢診未了ナリ、同年ニ於ケル第一期私種痘ハ百二十一人ニシテ前年ニ比シ三十九人ヲ減セリ、其善感割合ハ九割七分不善感ハ三分ナリ

第二期種痘即チ數ヘ年十歳迄ニ行ヒタル公種痘ハ一萬五千百五十人ニシテ前年ニ比シ九百十五人ヲ減シタリ、其ノ善感割合ハ七割四分ナリ、同年ニ於ケル第二期私種痘ハ三十三人ニシテ前年ニ比シ五人ヲ減シタリ、其ノ善感割合ハ六割七分、不善感ハ三割三分ナリ

法定傳染病 大正十三年ニ於ケル法定十種傳染病患者ハ四百四十一人ニシテ中腸窒扶斯三百八十四人、バラチプス三十二人、實布埜利亞四十六人、赤痢八人、流行性腦脊髓膜炎六人、猖紅熱十一人ナリトス、各症死亡ノ平均二九・二五%ナリ

第 九 交 通

道 路 國道十五號路線ハ奈良ニ起リ北方山城ノ國ニ通ズ延長一里二町九間、縣道ハ百二十七路線延長三百里餘アリテ其ノ中著名ナルモノ三線アリ、奈良大阪線、奈良津線、奈良和歌山線トス、何レモ奈良ヨリ起リ西、東、南方ニ至ル其ノ他著大ノ道路上市松坂線、榛原久居線、奈良月瀬線、上市本本線、笠置榛原線、天川下市線、丹波市上野線、高見名張線、五條本宮線ノ九線アリ之ニ加フルニ市町村道路ハ延長一千五百九十六里餘ニ達セリ

鐵 道 大阪ヲ起點トシ王寺奈良ヲ經テ名古屋ニ通ズル關西本線アリ又王寺ヨリ分岐シ高田五條ヲ經テ和歌山ニ通ズルモノ、奈良ヨリ櫻井ヲ經テ高田ニ通ズルモノ及ビ奈良ヨリ京都ニ通ズル國有鐵道ノ外吉野、初瀬、大和、天理ノ地方鐵道アリ吉野鐵道ハ高市郡ノ八木町ニ起リ吉野郡大淀町大字北六田ニ至リ、初瀬鐵道ハ櫻井ヨリ起リ初瀬ニ通ジ大和鐵道ハ王寺ヨリ櫻井ニ至リ天理輕便鐵道ハ法隆寺ヨリ丹波市町ニ通ズ又大阪電氣軌道ハ大阪上本町ヲ起點トシ生駒山ヲ貫通シテ奈良市ニ通ジ更ニ西大寺ヨリ分岐シ郡山、田原本ヲ經テ畝傍御陵、橿原神宮ニ達スルモノアリ其ノ總延長百二十二哩ニシテ貨物ノ運輸交通ノ便備ハレリ

索 道 本年ニ於ケル索道數ハ十二、其ノ總延長八十四哩餘ニシテ山間部ニ於ケル貨物運輸ノ重要機關ナリトス

通信機關 明治四年末開始以來漸次完備シ現在ニ於テハ郵便局百、電信取扱局七十八ヲ算スルニ至レリ

第一〇 災 害

暴風雨被害 大正十三年ニ於ケル暴風雨被害損失見積價額二十四萬一千八百四十九圓ニシテ特ニ被害ノ甚シカリシハ大和川及吉野川流域等ニ於ケル河川及道路ノ被害ニシテ毀損箇所四百六十四、損失額十七萬二千七百八十二圓ナリ

火 災 本年中ニ於ケル火災ノ度数ハ百三十九、前年ニ比スレバ二十ヲ増加シタリ中失火ハ百三十三ニシテ九五%ニ當レリ罹災家屋ハ住家及非住家ヲ併セ百八十八棟ヲ算シ損害見積金額二十八萬三千八百五十七圓ニ達ス

第一一 財 政

國 費 大正十三年度ニ於ケル國庫支出ノ本縣經費總額ハ四十五萬四千三百十五圓ニシテ內經常費三十八萬四千三百九圓、臨時費七萬六圓ナリトス、之ヲ前年度ト比較スルニ經常費ニ於テ五十五萬三千百四十六圓、臨時費ニ於テ三千三百三十三圓ヲ減シ總額ニ於テ五十五萬六千四百七十九圓減少セリ最近五ケ年間ニ於ケル累年比較ヲ表示スレバ次ノ如シ

		年 度	經 常 部	臨 時 部	計	指 數
大	正	9	324,747	270,657	595,404	100
〃		1 0	361,691	255,865	617,556	104
〃		1 1	478,036	102,724	580,760	98
〃		1 2	937,455	73,339	1,010,794	170
〃		1 3	384,309	70,006	454,315	76

縣 費 大正十三年度ニ於ケル本縣決算總額ハ歳入經常費三百二十四萬三千五百十圓、臨時費百五十三萬五千五百四十二圓、總計四百七十七萬九千五百十二圓ニシテ前年度ニ比シ經常費ニ於テ二十八萬二百七十一圓、臨時費三十一萬九千四百三十四圓、總額ニ於テ五十九萬九千七百五圓ヲ減シタリ、歳出ハ經常費二百五十八萬四千六百九十四圓、臨時費百四十三萬三千四百三十六圓、總計四百一萬八千百三十圓ニシテ前年度ニ比シ經常費ニ於テ一萬三千二百三十三圓増加シ臨時費ニ於テ二十萬五千九百六十六圓ヲ減シ總額ニ於テ十九萬二千七百三十三圓ノ減少ヲ見タリ、最近五ケ年間ニ於ケル歳入歳出額ヲ表示スレバ次ノ如シ

		年 度	入				出			
			經 常	臨 時	計	指 數	經 常	臨 時	計	指 數
大	正	9	2,282,052	628,501	2,910,553	100	1,857,168	751,756	2,608,924	100
〃		1 0	2,841,472	598,290	3,439,762	118	1,940,705	868,548	2,809,253	108
〃		1 1	2,930,144	1,264,522	4,194,666	144	2,192,581	1,293,665	3,486,249	134
〃		1 2	3,523,781	1,854,976	5,378,757	185	2,571,461	1,639,402	4,210,863	161
〃		1 3	3,243,510	1,535,542	4,779,052	164	2,584,694	1,433,436	4,018,130	154

大正十三年度歳入經常費ノ内容ハ縣稅八三・八一%、雜收一三・〇五%、國庫下渡金二・八九%
 財産收入〇・二五%ナリ、縣稅中戶數割ハ總額ノ三〇・八〇%、雜種稅二九・五四%、地租割二
 七・七三%ヲ占ム、歳出經常費ノ中土木費ハ三〇・一〇%、教育費二〇・五九%、警察費二〇・五
 八%ヲ占メ居レリ

市町村費 大正十三年度決算ニ依ル市町村歳入總額ハ七百五十二萬五千三百三圓ニシテ前年度ニ
 比シ三十五萬二千二百十五圓ヲ減シタリ、市歳入額ハ六十三萬一千九百二十圓ニシテ之ヲ前
 年度ニ比シ十九萬九千八百三十六圓ヲ増加シタリ、市歳入ノ主ナルモノハ雜種稅附加稅ニシ
 テ歳入總額ノ二割ヲ占メ之ニ亞グハ繰越金、戶數割附加稅ナリ、町村歳入總額ハ六百八十九
 萬三千一百八十三圓ニシテ之ヲ前年度ニ比シ五十五萬二千九百五十一圓ヲ減シタリ、歳入中
 租稅ハ五割五分ヲ占メ其中戶數割附加稅五割八分、地租附加稅一割五分、雜種稅附加稅一割
 二分ナリ、又租稅外歳入ノ主タルモノハ繰越金、國庫下渡金、寄附金、財産收入等ナリ

市町村歳出總額ハ六百五十三萬一百二十四圓ニシテ前年度ニ比シ四十七萬三千六百三十五圓
 ヲ減シタリ、市ノ支出額ハ五十一萬一千四百八十七圓ニシテ之ヲ前年度ニ比シ十二萬四千二
 百三十二圓ヲ増加セリ、支出ノ主タルモノハ教育費ノ三割四分首位ヲ占メ雜支出ノ一割九分
 役場費ノ一割七分ナリ、町村歳出額ハ六百一萬八千六百三十七圓ニシテ平均一町村三萬九千
 三百三十七圓ニ當ル、之ヲ前年度ニ比シ總額ニ於テ五十九萬七千八百六十七圓平均一町村ニ
 於テ三千六百二十七圓ヲ減シタリ、支出ノ主タルモノハ教育費ニシテ四割三分ヲ占メ役場費
 ノ一割九分、土木費ノ一割二分之ニ亞ギ尙主ナルモノハ基本財産造成費、土木費等ナリ

諸稅負擔 大正十三年度國稅總額ハ五百五十三萬六千九百九十九圓ニシテ前年度ニ比シ七萬五千七
 百二十九圓ヲ減シタリ、直接國稅ハ二百三十七萬八千三百二圓ニシテ前年度ニ比シ四萬七千
 七百五十二圓ヲ増加セリ

地 租 大正十三年末ニ於ケル地租納稅人員ハ十二萬七千八百八十九人ニシテ本年末人口百
 ニ付納稅者ノ割合ハ二一・五四ナリ、地租納稅額ハ八十八萬二千七百十三圓、内田租六十六萬
 八千三百八十八圓、畑租八萬七千六百三十九圓、宅地租十萬五千四百五十四圓、雜地租二萬
 一千二百三十二圓ナリ、地租納稅額ヲ郡市別ニ見ルニ生駒郡ノ十四萬圓最モ多ク磯城ノ十三
 萬圓、北葛城ノ十二萬圓之ニ亞ギ八萬圓臺ノ地方ハ添上、高市ナリトス

所 得 稅 大正十三年度ニ於ケル所得稅納稅人員ハ第一種百二十人、第三種一萬四千三百五十
 四人ニシテ前年度ニ比シ前者ハ三十七人、後者ハ一千四百八十七人ヲ減ゼリ、人口百ニ對ス
 ル第三種所得稅納稅人員ハ二・四ニ當リ前年度ニ比シ〇・二六ヲ減ゼリ、所得稅納稅額ハ合計
 一百十萬五千四百九十圓ニシテ前年ニ比シ一萬七千八百八十三圓ヲ減ゼリ、郡市別ニ見ルニ吉野
 郡ノ二十二萬圓最モ多ク奈良市ノ十九萬圓、生駒ノ十五萬圓、高市ノ十一萬圓之ニ亞ギ最少

ナルハ添上ノ二萬圓ナリトス

營業 稅 大正十三年度ニ於ケル營業稅納稅人員ハ八千三百四十人ニシテ大部分物品販賣業ヲ營ムモノナリ、營業稅納稅額ハ二十七萬九千四百三十二圓ニシテ前年度ニ比シ三萬四千四百五圓ヲ増加セリ、納稅額最多ナルハ奈良市ノ六萬圓ニシテ生駒ノ五萬圓、吉野ノ四萬圓相亞キ多キ地方ニ屬ス

縣 稅 大正十三年度縣稅總額ハ二百七十一萬八千二百三十圓ニシテ前年度ニ比シ二十八萬一千五百八十三圓ヲ減セリ、縣稅總額中地租割ハ二割八分、雜種稅二割九分、戶數割三割一分ヲ占ム、現住戶數一戶ニ對スル戶數割ハ七圓四十六錢ナリ

地 方 債 大正十三年度末ニ於ケル地方債ノ總額ハ一百二十一萬六千七百三十六圓ニシテ內縣債八十八萬二千八十五圓、市債十萬九千七十九圓、町村債二十二萬五千五百七十二圓ナリ